

**目黒区高次脳機能障害者支援セミナー**

- テーマ:「高次脳機能障害者の就労支援」
- 講師:東京慈恵会医科大学附属病院 リハビリテーション科 診療医長 羽田拓也 先生
- 開催方法:Youtubeによるオンライン開催
- 動画配信期間:2024年1月22日(月)~2024年2月9日(金)
- 費用:無料
- 申し込み期間:2023年12月1日(金)~2024年1月12日(金)
- 申し込み方法:当施設ホームページ、電話、FAXよりお申込みください ⇒ <https://www.ikiikifukushi.jp/>

### 新入職員紹介

<b>日浅 茉依 (ひあさまい)</b> 職種:作業療法士	<b>宮本 美波 (みやもとみな)</b> 職種:作業療法士
以前は病院勤務であった為、地域では利用者様の生活を見ながら関わっていくことがより一層必要であることを感じています。利用者様がより良い生活を送れるように、生きがいを感じられる場を作ることができるように努めたいと思います。 どうぞよろしくお願ひ致します。	いきいきでは、誰もが地域で自分らしく暮らしていく為の支援をしていきたいと考えています。今まで病院で学んできた知識を活かして、高次脳機能障害や若年性認知症の方に寄り添った支援ができるよう頑張ります。皆様と楽しい活動を日々行なうべきだと思います。よろしくお願ひ致します。

### 寄付金のお願い

私共法人の理念は、制度の間にある人への支援を検討し、全国に普及啓発することであり、若年性認知症や高次脳機能障害の人のための専門施設が、その専門性を發揮して、安心・安全に運営を継続することが、何より大切なことと考えております。当法人の理念や活動に共感いただき、応援してくださる方は、大変恐縮ですが寄付金によるご支援、ご協力を賜わればありがたく存じます。NPO法人は、賛助会員の皆様による事業の応援によって運営が成り立っております。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

【ご寄付は以下の口座で承っております】

■三井住友銀行  
店番号 094 学芸大学駅前支店  
口座番号 6711899  
口座名 特定非営利活動法人 いきいき福祉ネットワークセンター

■ゆうちょ銀行  
記号 10000  
番号 95750581  
口座名 特定非営利活動法人 いきいき福祉ネットワークセンター

### 会員とは

- NPO法人の会員とは、主に賛助会員で構成され、事業活動を理解して応援して下さる方をいいます。
- 当NPO法人の場合、若年性認知症や高次脳機能障害の啓発活動を応援して下さる方が会員となります。
- 施設利用の有無に関わらず、応援することができます。
- 事務局の運営、並びに通信の発行や講座等の啓発活動に使われます。

【会費】 ■入会金…1,000円 ■年会費…1,000円

### 新規NPO会員のみなさま

今回、6名の方にご入会頂きました。ありがとうございました。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます

### 編集後記

今回、過去のいきいき通信を振り返ることで、当時を思い出して少しノスタルジックな気持ちになって癒されました。冬に向けていっきに加速したので、暖かくして、昔を懐かしんでリラックスしてみてはいかがでしょうか。(守屋)

発行所:特定非営利活動法人 いきいき福祉ネットワークセンター  
〒152-0003 東京都目黒区碑文谷 5-12-1-3階 TEL03-3713-8207 FAX03-6808-8576  
Mail info@ikiikifukushi.jp HP <http://www.ikiikifukushi.jp/>

# いきいき通信

Vol.50 Nov.15th 2023

## 主体的な若年性認知症や高次脳機能障害の普及・啓発へ

### いきいき通信 50号発行にあたって

#### ～約20年で50号を発刊 普及・啓発の一翼を担う～

「いきいき通信」は、当法人を応援して下さる賛助会員の皆様や、医療・福祉・介護に携わる施設関係者を対象とした通信誌で、2004年8月、NPO法人化前の障害者団体発足時に第1号を発行いたしました。その後毎年春・夏・秋冬の年間3期分の発行をおおよそ19年間続け、病気・障害・地域交流など多くの情報を発信して参りました。

発行開始から10年間(2004~2013年)では、私たち支援者が日常から感じている本人・家族の抱える課題を取り上げ、紙面上での啓発を行っています。またその後の10年間(2014年~2022年)では、地域のトピックスをテーマとして地域社会への参加や誰もが同じように支え合う地域づくりの普及へ視点をあててきました。

多くの地域に同じような社会資源が普及して欲しいという当時の願いは、「いきいきせかんど」による高次脳機能障害の人の生活支援・就労支援方法の普及や、「東京都若年性認知症総合支援センター」による専門相談窓口の設置など、長年の地道な取組みを経て着実に世の中に広がってきていました。

#### ～参加型の記事作り～

第1号では、「バスに乗ったら時間がかかる」と引きこもっていた高次脳機能障害で片麻痺のある人の様子を掲載し、それに対して「遠慮しなくてもよい、そして気を遣われ過ぎない社会のために、障害のある人も協力できると良い」と通信は提案しています。

この20年で福祉・介護の分野で大きく変化してきたことは、本人が自身の病気について世の中へ啓発し、自己決定による本人主型支援になったということがあげられます。先の高次脳機能障害のある人が、普通にバスに乗って行きたいところへ行くことができるようになるには、自分のリハビリテーションに主体的に参加することが実現につながります。

今後も制度の間にある本人・家族の地域社会での暮らしやすさを目指して、情報発信の継続をして参りますが、同時にこのような本人発信の背景にあわせ、この先の発行する50号はいきいき通信の普及・啓発の役割に本人をはじめとする多くの人に関わって頂けるよう、参加型の通信誌発行の提案をして参ります。記事の寄稿や、情報や、思い・考えなど多くのお声を、「いきいき通信」に届けて頂けますと幸いです。

#### 思い出の記事 (1) ~地域コミュニティと介護~

私の思い出深い通信記事は、2015年に「地域コミュニティ」をテーマにした特集です。厚生労働省が2025年を目途に「地域包括ケアシステム」の実現を目指し、要介護者への支援体制が検討される中、介護者のケアに至っては未整備な部分が多いと感じ、介護者が孤立せず、地域で支えあう形を考えるために「地域コミュニティ」というテーマで一年間取り組みました。その中でも特に印象に残っているのは、「アラーズカフェ&ダイニング アラジン」に訪問してアラーズカフェを取材させて頂いた記事です。当時の課題として、「行きたい時に行ける場」として毎日開放しているところが少なく、「行きたくても時間が合わない」という問題がありました。

アラーズカフェの特集から約8年経過して、現在も毎日のように開催している場所は少ないですが、様々な用途の認知症カフェは各地域に増えているようです。目黒エリアではD カフェネットが15店舗あって、様々な職種の方が関わって開催しているので、お近くの方は是非参加してみてはいかがでしょうか。(守屋)

## 思い出の記事（2）～東京都若年性認知症支援モデル事業～

### ■いきいき発の若年性認知症支援コーディネーターによる支援が全国へ

今から約13年前、2010年4月26日発行のいきいき通信第16号の一面記事は「若年性認知症支援モデル事業者に当法人が選ばされました」でした。若年性認知症の方に対する支援が整えられていない当時、東京都の若年認知症支援モデル事業に応募し、11事業者の中からいきいきの案が選ばされました。内容は、若年性認知症マネジメント支援モデルの構築を目指し、支援マニュアル作成や若年性認知症の方の様々な問題を各支援機関につなぐコーディネーターによる支援でした。

この支援モデルは3年間のモデル事業を経て、東京都で事業化され、現在では国の施策となり全国の都道府県・指定都市に若年性認知症支援コーディネーターが配置されることになりました。いきいき通信第16号は、いきいき発の若年性認知症の方への支援が全国に拡がった、そのきっかけを伝える記事でした。

### ■当時の思いを忘れずに、これからも活動を続けたい

記事の中では、モデル事業選定のための説明会場にいた他の多くの事業者を前に、「とても無理」と思ったと綴られており、その時の緊張感が伝わってきます。支援の狭間にあった若年性認知症の当事者・家族の声を汲み取り、実際の支援の形にして拡げたいという支援者の思いが表れているようです。

NPO法人としてこの思いと行動力を忘れずに、若年性認知症・高次脳機能障害の方が住みよい社会となるように活動していきたいと改めて思い起こされる記事でした。（後藤）



令和5年7月24日、区西北部(北・豊島・板橋・練馬)の若年性認知症支援に携わる医療機関や行政機関の担当者が集まり、若年性認知症支援地域連絡会が開催されました。東京都若年性認知症総合支援センターとの連携強化や地域のネットワークづくりを行うための連絡会です。各区の取り組みを情報交換したり、普段は顔を合わせることの少ない支援者同士のつながりを作りました。今回はその参加者である北区の取り組みについてご紹介いただきました。

## 若年性認知症支援の地域ネットワークづくり～北区での取り組み～

北区福祉部長寿支援課：清水美来 様 菊池亜樹 様

若年性認知症に対する取組みとして、北区では様々な事業に関連させて支援を行っています。

認知症初期集中支援事業では若年性認知症の方を対象としたケースもあり、チーム員会議に認知症疾患医療センターの職員や長寿支援課、障害者福祉センターの保健師が出席し、その対象者の支援方針について多角的な視点で意見交換を行っています。

認知症カフェに関しては北区内に29カ所あり（令和5年10月現在）、各地域包括支援センターがおおむね月1回開催し、その中に若年性認知症カフェがあります。当事者の方やご家族などが参加し、認知症地域支援推進員が参加者のニーズに合わせてプログラムを構成しています。カフェでは定期的にもの忘れ相談（医師相談）を実施しており、若年性認知症の相談者が初期集中支援事業につながったケースもあります。

若年性認知症の啓発を推進するために講演会をアルツハイマー月間に合わせて開催しており、今年度は若年性認知症当事者の方にご登壇いただき、ご本人の言葉で診断前後の状況から現在の生活までお話していただきました。講演後参加者の中から、実際に認知症疾患医療センターへの受診に繋がった方もおり反響も大いにあったため、今後も若年認知症に関する普及啓発に努めていきたいと考えています。

また、若年性認知症は多岐にわたる課題を抱えており、その相談先も多様です。現状は各部署間で対応していますが、関連する機関同士で定期的に情報共有をして切れ目のない支援を目指していきたいと考えています。

## 齋藤先生の 若年性認知症

そ・う・だ・ん

若年性認知症は社会の中で重要な役割や責任をもって活躍されている方が発症してしまうという特徴があります。このため、ご本人やご家族の動搖は大きく、経済面でも苦しくなりがちであり、高齢者の認知症に比べて問題が複雑になることが多いです。また、症例が少ないために支援者の方々も戸惑うことが多く、どうしたら良いのか分からなくなることが多いです。

そこで当法人の理事で、東京都立松沢病院名誉院長であり、精神科医の齋藤正彦先生が毎月第4火曜日14時から16時まで若年性認知症のお悩みにお答えするという機会を作りました。

若年性認知症ってどんな病気？ 新しい薬はあるのか？ 悪くならないようなリハビリはあるの？ 仕事はいつまで続けられるのでしょうか？などなど…日常生活上の様々な問題について、ご本人・ご家族だけでなく支援者や関連機関の皆様のご相談も受け付けております。

初回は本年7月に開催され、男女一名ずつの相談者が参加されました。参加者の方はご本人の悩みについて、病気への対処方法や今後の見通しなど、医学的見解からの助言を受けることができ、安心されたご様子でした。また支援者についても、臨床経験豊富な齋藤先生よりスーパーバイズを受けることができ、提供している支援について振り返る良い機会になったとの感想を持っておられました。今後も開催を予定しておりますので、参加希望の方はお気軽に当センターにご連絡いただければと思います。（坂田）

## いきいき\*せかんどへ通うAさんへ齋藤先生の相談会を 利用された感想をお聞きしました

相談会を利用したきっかけは？

いきいき\*せかんどを週2回利用しています。相談会のお話しがあった時は、今後のことについて考えている時期ということもあり先生に聞いてみようと思いました。

相談して感じたことは？

私は一人暮らしをしているので、将来は入所型の施設利用を考えています。入所する時期の見通しやどんな施設が良いのか…、聞いてみました。先生からは①自分で決められる時に見て歩くと良い。②見学という形でなくとも共有スペースの利用が出来るところであれば行ってみて、様子を見てみると良い。とアドバイスを受けました。

①は自分の希望を事前に伝えておける②は見学時よりも施設の雰囲気やスタッフの様子が分かるからということでした。なるほどなあと納得が出来ましたし、参考になりました シンプルに分かりやすく話してくださるので理解がしやすかったです。また、決めつけられるようなことがなく、アドバイスとして話してくださっていたので安心して話が出来ました。

これから相談会を利用する方に伝えたい事

あくまでも自分自身の経験からですが、ご本人は、困りごとや相談したい事がなんとなくもある時に利用されると良いのかなと思います。自分が困っていないのにアドバイスをされても、受け入れられないしピンとこないかなと思います。

私もいきいき\*せかんどに通い始めて考えたことや最近は生活中でだんだんと難しくなってきたこともあり相談しました。ご家族の方については、ご本人が困っていないと感じているときこそ大変なのではないのかなと思います。

先生はシンプルな言葉でアドバイスしてくれますし、分からないことが多いと思いますので情報を集める点でも相談されると良いのかな思います。人それぞれ状況も違いますが、少しでも早めに出来ると良いのかなとは思います。（月岡）